

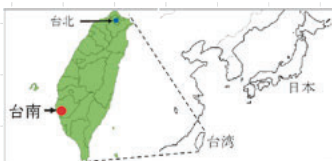


みなかみ町の中学2年生が台南市を訪問し、同世代と交流し理解を深める

中学生海外派遣事業 12/22 ~ 12/26

町内の中学2年生34名と引率者7名が台南市(台湾)を訪問しました。台南市と町は平成25年に友好協定を締結して以来、これまで様々な分野で交流を続けています。

この海外派遣事業は、平成28年から始まり、今回で6度目の訪問となりました。参加した中学生が台南市の中学生との交流によって相互理解を深めるとともに、異文化を見聞しながら国際的な視野を広げることを目的に実施しています。



◀台南市の位置
人口約185万人、昔から政治・経済・文化の中心地です。

●海外派遣に向けた事前学習と準備

参加した生徒は、全6回の事前学習会等に出席し、英語によるコミュニケーション練習、台湾や台南市の歴史・文化・生活習慣、渡航のルール・マナーなどを学び、台南市の崇明中学校で披露する校歌などの練習を重ねて派遣に臨みました。

●崇明中学校との交流・台南市政府訪問

現地研修では、台南市の崇明中学校や台南市政府の訪問、そして史跡名所等を見学しました。崇明中学校では、民族楽器の演奏披露や、英語での学校紹介がありました。紹介してくれた生徒の流暢な英語と堂々とした振る舞いに、国際語である英語の大切さを改めて認識しました。その後は、崇明中学生と一緒にカルメ焼きや春連※作りなど、台湾の伝統文化を体験学習したほか、みなかみ中学校の校歌を披露しました。崇明中学校との交流は毎回、趣向を凝らした内容の企画があり、楽しく貴重な体験をしています。※春連：中華圏における旧暦新年の春節(旧正月)に門や戸、門柱などに貼り付ける縁起物



▲崇明中学校生徒と一緒にカルメ作り



▲町訪問団と崇明中学校の先生・生徒記念写真

●大学生との交流と名所見学

成功大学へ留学している生徒との交流では、留学したきっかけや台湾での生活などを聞くことができ、生徒にとって海外留学への興味・関心を高める時間となりました。翌日は、新幹線で台北へ移動し、故宮博物院、忠烈祠、九份などの見学も有意義な経験となりました。

●新たな発見を得た海外派遣

今回の派遣事業では、文化や生活習慣の異なる海外において、町の中学生が外国の同年代の生徒と積極的にコミュニケーションを図りながら、一緒に学校生活を体験することができました。参加した中学生それぞれにとって、自分なりの新たな課題を見つけた海外派遣となりました。



▲崇明中学校でみなかみ中学校の校歌を披露



▲成功大学で留学生との交流



町内の公職者が一堂に会して新春を祝う

新年賀詞交歓会を開催 1/10

カルチャーセンターにおいて、令和7年みなかみ町新年賀詞交歓会が開催され、100人を超える方々が参加しました。同会は、町内の公職者が一堂に会して新春を祝う恒例行事として毎年開催されています。

式典では、主催者の阿部町長、小林議長による新年のあいさつの後、ご来賓の国会議員等の皆さまから祝辞をいただきました。

また、ふる里みなかみ親善大使のなつこさんより、町歌である『ふる里「みなかみ」』や『ガラスの蝶』など計8曲が披露され、式典を盛り上げました。



▲なつこさんによるアトラクション



▲阿部町長の新年のあいさつ



▲田村教育長による万歳三唱



ウインターシーズンの到来を祝う

みなかみ冬のオープニング祭り 12/24

湯原温泉街駐車場において、町内7つのスキー場による合同スキー場開きが行われ、吹雪の中、スキー場の安全な営業と多くのスキー客の来場を祈願する神事とテープカットが行われました。

その後、「みなかみ冬のオープニング祭り」が開催され、「でんでこ座三国太鼓」がクリスマスバージョンの和太鼓演奏を披露したほか、人間紙芝居で子どもたちに大人気の「せきあっし」によるお笑いステージショーが行われました。

また、スキー場リフト券や湯原温泉街食事券を賞品としたクリスマスプレゼントじゃんけん大会も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

イベントのフィナーレでは、恵みの冬の到来に感謝する花火が冷たい空気で澄んだ夜空に打ち上げられました。



▲吹雪の中行われた神事



▲スキー場開きテープカット



▲盛大な打ち上げ花火



▲三国太鼓クリスマス Ver



▲せきあっしお笑いライブ



長年続く托鉢浄財の寄附活動

利根西部佛教会が町へ寄附 12/19

利根西部佛教会の高野良賢さん（寿命院）、佐藤千浄さん（如意寺）、島田悟朗さん（海圓寺）の3名が阿部町長を訪問し、令和6年10月24日に行われた托鉢で集まった浄財から5万円の寄附をいただきました。

この活動は長年続けられており、毎回有効に活用させていただいております。この寄附金は、町の福祉向上のために役立てていきます。



▲左から佐藤さん、高野さん、阿部町長、島田さん

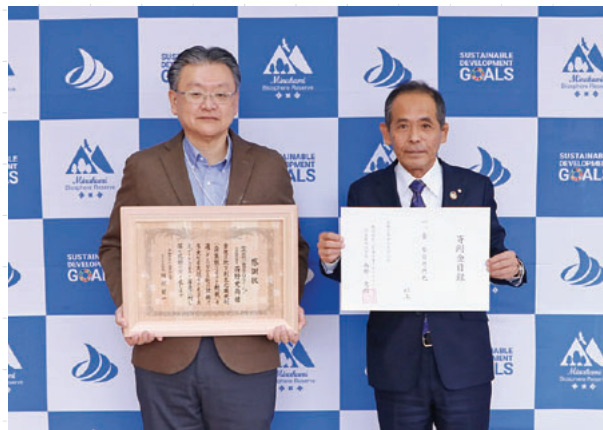


谷川連峰の湧水を利用した商品などを手がける

JRクロスステーションが町へ寄附 12/13

株式会社JR東日本クロスステーションウォータービジネスカンパニー（竹内健治取締役）から、企業版ふるさと納税として300万円の寄附をいただきました。また、同社は谷川連峰の自然保護活動等にも取り組んでいただいております。

この寄附金は、多くの方々に谷川岳の自然と安全にふれあい、楽しんでいただくためのエコツーリズム活動に役立てていきます。



▲竹内健治取締役（左）と阿部町長（右）



教育行政推進に貢献

阿部剛さんに教育行政功労者表彰 11/15

教育行政において貢献された教育委員等を表彰する群馬県市町村教育行政功労者表彰を教育委員の阿部剛さんが受賞されました。

阿部さんは、平成23年11月26日に就任以来、4期約13年間にわたり、教育行政推進に貢献されました。また、みなかみ中学校統合においては、教育委員として積極的に関わるなど、教育行政全般で活躍されています。



▲阿部剛さん



地域共生社会の推進に貢献

高橋利典さんが藍綬褒章を受章 12/23

犯罪防止や誤って罪を犯してしまった人たちの社会復帰に助力し、社会の連帯感や規範意識を高める「社会を明るくする運動」の取り組みが評価され、保護司の高橋利典さんが藍綬褒章を受章されました。

また、「社会を明るくする運動」では、人と人とのつながりが希薄になってしまった現代において、望まない孤独や社会的孤立などの問題を抱える方々の手助けも行っています。



▲高橋利典さん（左）阿部町長（右）



豊かな生物多様性の森づくりに挑戦

赤谷の森でイヌワシの森づくり 11/30

生物多様性の保全や復元、地域づくりに取り組む赤谷プロジェクトの活動の一環として、イヌワシの狩り場環境向上のための除伐作業とミズナラの苗の植樹が行われました。

参加した田村大翔さん（大学2年生）は新治小学校時代からイヌワシの森を守る活動をしており、自分たちの手で赤谷の森をイヌワシの生きられるドングリの森に復元する活動を続けています。



▲植樹する田村大翔さん

親から子へ、子から孫へと100年かけて「イヌワシの住める森」をつくるため、未来を担う地元のごどもたちが、みなかみユネスコエコパークの「豊かな生物多様性の森づくり」に挑戦してくれています。豊かな森は水害を防ぎ、飲み水を作り、地球温暖化を防ぎ、わたしたちの命を守ってくれます。



日本最高峰の科学コンクール

「日本学生科学賞」群馬県奨励賞を受賞 10/11

見城光祐さん（高校2年生）による「イヌワシとヒヨドリの視覚能力」の研究が「日本学生科学賞」の奨励賞に輝きました。

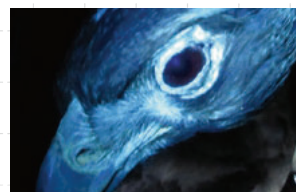
見城さんは小学生の時にイヌワシ観察会に参加してから7年間研究を続け、イヌワシが紫外線視覚で狩りをするという学説をもとに立証実験を行いました。また自宅に作ったエサ台でヒヨドリの学習実験を行い、優れた知能と視覚能力を解明しました。



▲自作のエサ台の前に



▲エサ台に来たヒヨドリ



▲イヌワシの紫外線写真



一年間の無火災、無災害を祈念

みなかみ町消防出初め式 1/12

月夜野総合体育館において、みなかみ町消防出初め式が挙行され150人の消防団員が参加しました。出初め式は、一年間の無火災、無災害を祈念するとともに、消防団員が一致団結し、心新たに消防活動を行えるよう毎年開催しています。



▲敬礼する阿部町長と整列した消防団員



地元の魅力や素晴らしさを伝える草の根の活動

みなかみ笑顔新聞一周年記念誌を発行 12/25

町内の魅力を伝える「みなかみ笑顔新聞」が2023年11月の創刊から一周年を迎え、発行者の小野湊斗さん（高校生）が一周年記念誌を阿部町長に手渡しました。

小野さんは「みなかみ町の魅力は、美しい自然はもちろんですが、人のあたたかさが素晴らしいと思います。今後は、若い世代の活躍を取り上げ、新聞を読んでいただいた方々を笑顔にできるような明るい話題を提供したいです」と意気込みました。



▲一周年記念誌を手にする小野さん（左）と阿部町長（右）



地域おこし協力隊の活動

NPO法人水上自然遊楽 山梨 昭さん

こんにちは。MINAKAMI TOWN.EXEの山梨です。みなかみ町地域おこし協力隊も4年目になり、広報に寄稿するのも今回で最後だと思うとあっという間だったなと感じます。コロナ禍の活動制限があった影響もあり、任期を1年延長をさせていただきました。チームではトレーナーを勤めさせていただきながら町の課題でもある健康増進に繋がる対策としてストレッチ教室、出張パーソナルケア、トレーニング指導などを担当させていただいています。

ストレッチ教室に関しましては4年目を迎え、少しずつではありますが賑やかになってきました。もっと多くの方に知ってもらいたいと思っていますのでご興味ある方はぜひ一緒にストレッチをやりましょう。毎週月曜日の朝10時～11時に水上社会体育館の和室で開催しています。

また、競技者向けのトレーニング指導では、先日みなかみ中学校のバスケット部にトレーニング指導をさせていただきました。トレーニングを通じて競技のパフォーマンス向上や怪我の予防に繋がる指導がで

きればと思います。

加えて、出張パーソナルケアもしていて、自宅に訪問する事もあればイベントでケアブースを出店させていただき、そこで体験できたりもします。ご興味ある方はお問合せください。

3月で任期満了となり、4月以降は新たな事業に挑戦したりと、また1年過ぎるのが早く感じると思っています。これからも長くみなかみ町に定住できるように、今できる事を楽しんでやりたいと思います。



▲ストレッチ教室の様子



▲トレーニング指導の様子



▲パーソナルケアの様子

第69号

まちづくり協議会だより

問 まちづくり協議会事務局（企画課）

☎ 0278（62）2280

新治支部の活動（国道17号線布施地内植栽事業）

卯の花や 一際立し 夕闇暮

これは越後塩沢宿の鈴木牧之（「北越雪譜」の著者）が、江戸に向かう道中、布施宿に一泊した際の俳句です。薄暗くなりつつある夕暮れ時、宿の庭に咲く卯の花が夕暮れの中に一際目立ったのでしょう。江戸であれもしたい、これもしたいという牧之の意欲と一際目立つ卯の花が同調しています。

まちづくり協議会の目指す地域の特徴と個性を生かす活動は、このような地域のもつ背景を生かした活動であると考えています。

三国街道から国道17号線へと移り変わって、立ち止まって花々を眺めることもできない現代です。しかし、はやい速度で過ぎる日々の中で、牧之のように花ひとつに自分の心情を重ねられるゆとりのある時を持ってほしいと願って活動しています。

「大きな自然の中に身を置く小さな人間であって

も、ひとの意思は自然に負けない大きな想いに溢れている」（司馬遼太郎）

人も花も自然の中では小さな存在です。しかし、花にも人にも偉大な力があり、花と自分の意思を重ねてみるとその大きさに気づけると思うのです。花づくりには、そうした大きな意味もあります。

まちづくり協議会新治支部
布施宿みどりの会 利根川太郎



▲国道17号線布施地内植栽事業